

2. 上鼓室・乳突腔病巣処理を伴う鼓室形成術の術式名称について (2010)

日本耳科学会用語委員会

東野哲也、青柳 優、伊藤 吏、奥野妙子、小島博己、比野平恭之、松田圭二、三代康雄、山本 裕

外耳道、乳突洞の処理法に基づいて、乳突閉鎖型、乳突開放型、外耳道形成型鼓室形成術の3つに基本分類した旧臨床耳科学会用語委員会報告(1983年提案)に対して、日本耳科学会用語委員会2000年提案では、鼓室形成術を乳突非削開型と乳突削開型に分類した上で、後者を外耳道後壁削除鼓室形成術Canal wall down tympanoplastyと外耳道後壁保存鼓室形成術Canal wall up tympanoplastyの2つに分類した。外耳道後壁骨の処理を主体にした分類が前面に出されたのは、乳突腔処理に主眼をおく乳突開放型open method・乳突閉鎖型closed methodとの混同を避けるためでもあったとされる。しかし、外耳道後壁削除型手術の際に乳突削開腔を外耳道に開放しない様々な術式(外耳道再建型、乳突腔充填型、いわゆる軟組織再建・soft wall techniqueなどが普及してきた今日において、これらの術式を外耳道後壁削除型手術と同義に扱われてきた乳突開放型手術(いわゆるopen method)と同一のカテゴリーで論じるのは実情に合わないとする指摘もある。

このような背景から、今回の報告では「外耳道後壁削除鼓室形成術」を「外耳道後壁削除・乳突開放型」と「外耳道後壁削除・乳突非開放型」に区別することを提案したい。後者は外耳道後壁皮膚を温存するだけのものから軟組織や硬組織に至るまで種々の材料を用いて積極的に外耳道後壁を再建するものまで多彩であるが、現時点では乳突削開腔を外耳道に開放しない術式をまとめて「乳突非開放型」とする。「外耳道再建型」はこの中に含まれることになるが、多様化した「再建」手技のコンセプトを適切に分類する作業は今後の課題である。なお、「乳突腔充填術」については、後壁削除・乳突非開放型手術のみでなく、外耳道後壁保存型手術にも併用される共通の手技であることから、「付帯手技」として併記事項に残した。また、外耳道後壁削除・乳突開放型手術に伴う開放乳突腔を縮小する目的で行なわれる充填手技は乳突腔部分充填術として区別することも追記した。

上鼓室・乳突腔病巣処理を伴う鼓室形成術の術式名称

1. 乳突非削開鼓室形成術

乳突洞を開放しない術式。但しコントロールホールによる乳突洞の観察のみの場合や経外耳道的上鼓室開放術(TCA)はここに分類される【記載例: 経外耳道的上鼓室開放・鼓室形成術Ⅲi】。上鼓室側壁再建の材料を明記する場合には、経外耳道的上鼓室開放に続けて(再建材料)側壁再建を加える。

【記載例: 経外耳道的上鼓室開放・(軟骨)側壁再建・鼓室形成術】

2. 乳突削開鼓室形成術

経外耳道的または経(骨皮質)乳突的に乳突洞が開放される術式。外耳道後壁の骨および皮膚の処理方法の組み合わせにより下記の3つに大別される。

A) 外耳道後壁削除・乳突開放型鼓室形成術

外耳道後壁削除乳突削開術 (canal wall down mastoidectomy) 後の乳突腔を外耳道に開放する術式。

B) 外耳道後壁削除・乳突非開放型鼓室形成術

外耳道後壁削除乳突削開術 (canal wall down mastoidectomy) や経外耳道的上鼓室・乳突洞開放術 (transcanal atticoantrotomy) 後の乳突腔を外耳道に開放しない術式。外耳道後壁皮膚を温存するだけのものから積極的に外耳道後壁を再建するものまで多彩な手技が含まれる。外耳道後壁再建手技を講じた場合は、**外耳道後壁削除・再建型鼓室形成術**としてここに含めるが、再建材料による分類や乳突充填型、soft wall techniqueなどとの区分については今後の検討に委ねたい。

C) 外耳道後壁保存型鼓室形成術 canal wall up tympanoplasty

外耳道後壁保存乳突削開術 (canal wall up mastoidectomy) 、すなわち外耳道後壁の骨、皮膚ともに保存したまま乳突洞を開放する術式。

3. 併記すべき事項

1) 付帯手技

削開乳突腔の充填処理

乳突腔充填術 : B) またはC) の付帯手技として削開した (されている) 乳突腔を充填する術式。但しA) の付帯手技として乳突尖端部などを部分的に充填し、開放乳突腔を縮小する目的で行なわれる場合は**乳突腔部分充填術**とする。

【記載例 : 外耳道後壁削除再建型鼓室形成術Ⅲc・乳突腔充填 (皮質骨片・アパセラム顆粒)】

2) 複数回手術の分類

段階的鼓室形成術

2期的な耳小骨再建が計画された術式。第1次手術では病巣の清掃、鼓膜、含気性鼓室の形成を意図した手術を行い、耳小骨連鎖の再建は行わない。第2次手術で耳小骨連鎖の再建が行われる。

【記載例 : 外耳道後壁削除・乳突非開放型鼓室形成術wo・段階的手術 (第1次) ; 外耳道後壁保存型鼓室形成術Ⅲc・段階的手術 (第2次)】

再手術 reoperation

手術不成功例あるいは再発例に初回手術とは独立して行なわれる手術。

【記載例 : 外耳道後壁削除・乳突開放型鼓室形成術Ⅳc・再手術】

修正手術 revision operation

術後の治癒過程や聴力経過など初回手術の不備を修正するために行なわれる手術。

【記載例 : 外耳道後壁保存型鼓室形成術Ⅲi・乳突腔充填・修正手術】

点検手術 second look operation

一期的鼓室形成術を行い経過も順調であるが、真珠腫の遺残、再発や含気腔の確保の点検の意味で行われる手術。